



ご意見・ご要望お寄せください！ スマホからはこちら ➡



## 千葉外房有料道路が来年2月無料化

### 鎌取ICの改良・高田ICのフル化・照明灯増設など安全対策を

第3回定例会 代表質疑

●かばさわ議員 これまでも私は一般質問等で大網街道渋滞解消に向けて、早期の無料化を求めてきた千葉外房有料道路だが、いよいよ来年2月から全線無料化となる。議会質問で求めてきた千葉外房有料道路の高田ICのフル化と鎌取IC周辺の生実本納線の未整備区間について整備状況と完成見通しはどうか。また、過去5年間で千葉市内の外房有料道路交通人身事故件数が23件も発生するなか、今後無料化で交通量が増加するため、道路照明灯の増設や視線誘導標を更新し、安全性を高めるべきと考えるが、対応を伺う。



●副市長 高田インターチェンジは、新たに整備する茂原方面の出入り口と交差する市道との接続方法について、千葉県公安委員会との協議が整ったことから、事業着手に向け整備計画を地元の皆様にお知らせすることとし、動画配信によるWEB説明会を実施した。また、生実本納線の未整備区間は、千葉大網線との立体交差を含め、周辺道路との接続方法や沿線の土地利用に配慮した道路の構造などの検討を行っている。なお、早期完成に向け、現在、事業に必要な用地を取得するため、土地所有者の皆様と交渉を行っている。次に、道路照明灯の増設や視線誘導標の更新については、視線誘導標は、移管に伴う現場立ち会いで確認した破損箇所を、千葉県道路公社が移管までに補修を行うことで協議が整っている。今後、無料化により変化する交通量や現場状況を注視し、必要な安全対策について適切に対応していく。

## 534筆の土気踏切存続を願う住民の声を受けとめよ



●かばさわ議員 なぜ踏切存続を願う住民に対してアンケートするなど利用調査含め声を聞くこともしないのか。アリバイづくりの勉強会で結論を決めることは絶対に許されない。土気踏切の利用者の声、多くの踏切存続を願う住民へ声を市はもっと真剣に聞くことが必要ではないか。また、勉強会において自治会長等が賛否の意見を述べるには責任が重く酷な話でもあるため、私達が住民と共に3回にわたる存続求める署名534筆を住民の意思表明として受けとめ、市長が土気踏切存続の判断をすべきだ。

●副市長 土気踏切については、市民の皆様の安全を確保するため、現時点における方針は廃止としている。しかしながら、土気踏切廃止の撤回を求める要望など様々な御意見がある事は承知しているので、これらの声と真筆に向き合いながら、地元の皆様に御理解をいただけるよう努めていく。

### かばさわ洋平市政報告会



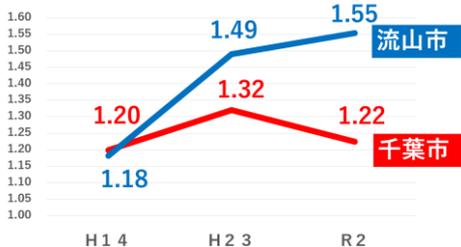
11月6日(日) 10時～  
土気公民館 講堂  
参加費無料

# 人口減少止めるために今こそ子育て支援に予算を

●**かばさわ議員** 子ども施策に予算を重点配分し、子ども医療費高校3年生までの無料化など実行した明石市は人口が9年連続増、出生率が1.70まで上昇、税収が8年で32億円増である。出生率比較では、千葉市は下がり、流山市が上がっている。

人口減少を止めるためには今こそ子育て支援に最大限予算を配分すべきと考えるが見解は。また、子どもさんが持病もつ世帯や多子世帯が子ども医療費負担増で苦しんでいるため、子ども医療費の負担軽減に取り組むべきだ。

合計特殊出生率の推移



●**市長** 子どもの最善の利益を図る取組みに注力し、すべての子どもや子育て家庭の支援の充実に努める。子ども医療費は、月額上限に関し県から、令和5年8月からの導入を目指方針が示されているため、県をはじめとする関係機関との調整を図りながら、適切に対応する。

## 冬場のコロナ感染備え救急体制の強化を

●**かばさわ議員** 新型コロナ第7波の感染増加で6月以降搬送先が決まらない救急搬送困難事案の推移と現場滞在最長時間・救急隊が駆け付けた後、傷病者を医療機関へ搬送しなかった件数について示されたい。日本共産党千葉市議団は8月に救急隊の増隊を求める申入れを行ったが、救急体制強化の更なる取組みが必要ではないか。



●**副市長** 救急搬送困難事案の件数は、6月が460件、7月が969件、8月が1,124件で、現場滞在の最長時間は、6時間28分となっている。次に、救急隊が出動したものの、医療機関へ搬送しなかった件数は、6月が855件、7月が1,387件、8月が1,880件となっている。7月からの新型コロナウイルス感染症が急拡大したことによる救急出動の急激な増加を受けて、普段は点検整備などの代車として使用している非常用救急車を非番の職員などで運用し、**最大で4隊の救急隊を増隊**させて体制の強化を図っている。

## 自治会活動への感染対策や地域運営委員会設立支援を

●**かばさわ議員** 本市の地域運営委員会は中学校区レベルでの設置を目指しているが50地区中18地区の開設に留まっている。中学校区地区となると地域が広範となるため活動エリアの負担増もあり、設置に至らない課題もあるため、より身近な小学校区における地域運営委員会の設置を目指すべきと考えるが見解はどうか。本市としても出前講座の開催や設立運営に向けた支援強化が必要ではないか。また、地域でコミュニティ活動が維持できるよう感染対策資材の提供など安心して地域コミュニティ活動が行えるよう支援すべきだ。

●**副市長** 地域の実情に合わせて活動範囲を柔軟に考える必要があることから、「千葉市市民自治によるまちづくり条例」においては、「小学校区や中学校区などの地域」で活動する組織と位置付けている。また、住民同士の助け合いと支え合いによる地域運営を持続可能なものとする体制づくりを進めることは、今後、ますます重要になると考えているため、小学校区や中学校区などの地域で活動する地域運営委員会をはじめ、地域における様々な活動の促進に向けて、**出前講座の開催等の支援**を強化する。町内自治会などに対して、地域のイベントを開催する際に必要な感染防止策をお知らせしており、地域の方からの相談に対応するとともに、**消毒液の提供、非接触体温計の貸与**といった支援を行っていく。

日本共産党 千葉市議会議員 **かばさわ洋平**

【かばさわ事務所】〒266-0005 緑区誉田町2-24-275 TEL 292-7764 Email [takumiuna@gmail.com](mailto:takumiuna@gmail.com)

【日本共産党千葉市議団】〒260-0026 中央区千葉港1-1(千葉市議会内) TEL 245-5484

